

五感をフル稼働して紡いだそれぞれの物語

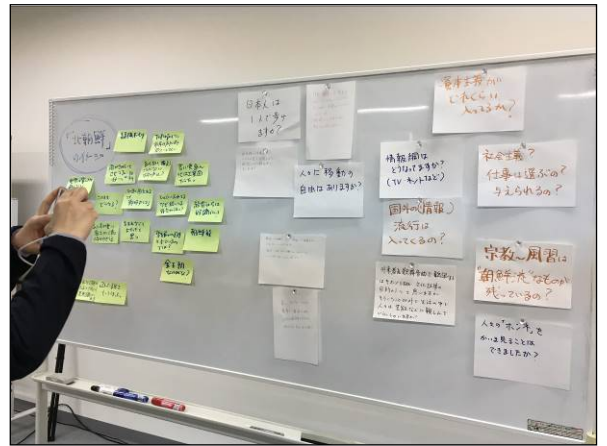


できあがったユニークな物語の出来に笑顔がこぼれます

2月4日、「ともに楽しむアートコモン・ラボ 言葉のキセキ〜カンカクで紡ぐ物語〜」が開催され、視覚障害者や聴覚障害者も含め、市内や東京、神奈川などから30代〜70代の約30人が参加しました。講師は、視覚障害者で、美術館などで美術鑑賞のワークショップを開いている筑波大学人間系助教の半田こずえさん、美術作家の井上尚子さん。半田さんの「においと記憶」に関する話題提供のあと、井上さんによる、見る・聞く・嗅ぐ・触る・味わう、の五感を通して、5人1組のチームメンバーがそれぞれの感覚で一つの物語をつくるワークを行いました。できあがった奇想天外なストーリーに会場からは終始笑い声が絶えず、賑やかな場となりました。終了後は、つくばアーバンガーデニングさんの協力により、好きなハーブを持ち寄ったガラスびんにつめる「香りのびん詰め」を作っておみやげに持ち帰りました。

「近くて遠い国」北朝鮮ってどんなところ？

なにかと剣呑な話題が続く謎の国・北朝鮮。ニュースや新聞で見聞きすると、ネガティブなイメージばかりが先行しますが、かの国にも、私たちと同じように働き、学び、遊び、日々の生活を積み重ねている人々がいるはず。2月24日の「市民の眼から見た海外の国ぐに」のテーマは「私の見た北朝鮮」。1970年代に北朝鮮へ行った在日2世、2000年代に行った在日3世、海外ボランティアとして、現在も足繁く通っている日本人、3名の話者提供者に、豊富な資料をもとに、それぞれの北朝鮮体験談をシェアしていただきました。とげとげしい言葉や政治的な議論を抜きにした、かの国の人達が見ている景色、空気を感じ取ってもらえたでしょうか。会場には、つくば在住の韓国人の方もいらしたので、「韓国人から見た北朝鮮」のお話いただき、多角的な視点から北朝鮮を知り・語り合える、貴重な場になりました。



「どんな国？」「どんな人たち？」たくさんの質問が集まりました

「くわたりーたち」として生きる技法」とは？

こんな言葉に **ピン!** ときたら...

共助社会	コミュニティ・カフェ
地域包括ケアシステム	居場所
つながり	ソーシャル・キャピタル
自治会・町内会	M. サンデル
公園デビュー	Facebook 疲れ
コミュニティアニズム	市民社会
排除／包摂	アソシエーション
縁側	LINE 外し
公共性	参加・協働
	サードプレイス
	絆

ポスターの言葉に、ピンとくるものはありましたか？

身近だし、とても便利なんだけど、意外とみんなが「異なる意味」で用いている言葉。「コミュニティ」も、そんな言葉の代表格ではないでしょうか。そんな概念をじっくりと問い直すための講座、「くわたりーたち」として生きる技法〜あらためて『コミュニティ』を考えてみようが、2月5日・19日、3月5日の全3回で開催されました。

つくば市民大学にしてはめずらしく(?)アカデミックなアプローチを採用しつつも、県内の具体的な地域福祉政策などを事例に、「どうすれば効果的なく協働)が可能となるだろう?」「どうすればく同化)やく排除)の圧力を避ける/超えることができるだろう?」「『ともに生きる』ことを可能にするためには、どのような仕組み)やく仕掛け)があるとよいだろう?」といった「一筋縄ではいかない」問いをめぐる対話を楽しみました。

「話しあう場」「学びあう場」のための特効サプリ

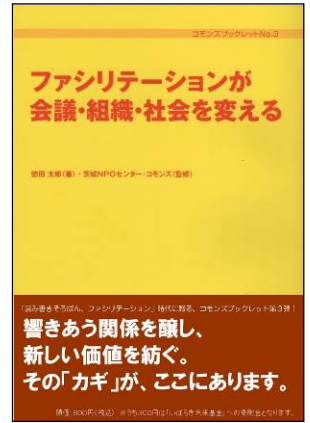
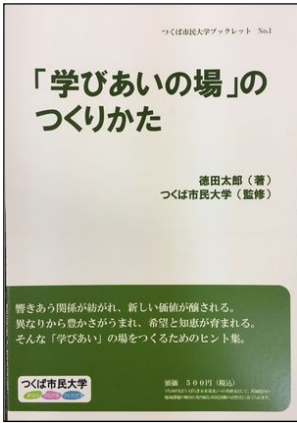
～ ブックレット好評頒布中 ～

代表幹事・徳田太郎による2冊のブックレット、「学びあう」「話しあう場」をつくりたい、続けたいと考えている方々にぴったりの2冊のサブリー本を頒布中です。

リリース以来、「目からうろこのテクニックが満載」「実践ですぐに役立った」「ハンディで読みやすい」と、ご好評をいただいております。

ご注文はつくば市民大学ウェブサイト【お問い合わせフォーム】より承っております。 <https://www.tsukuba-cu.net/contact.html>

購入希望書名をご明記の上、希望冊数・お届け先の郵便番号・住所・氏名・電話番号を忘れずにご連絡ください。払込用紙を同封のうえ、ブックレットをお送りいたします。(送料別途)



■「学びあいの場」のつくりかた■

「まなぶ・つながる・つくりだす」がキャッチコピーのつくば市民大学での実践の中で育まれた、参加・体験型の講座をつくるための知恵をまとめたハンドブックです。

「かんがえかた」「つくりかた」「はこびかた」「あつめかた」「つづけかた」。

5つのステップで整理された工夫の数々は、生涯学習や社会教育における各種講座、セミナーやワークショップ、シンポジウムやフォーラムなど、人々が集いあうさまざまな現場で応用が可能です。

A5判・32ページ、頒価 500円

■ファシリテーションが会議・組織・社会を変える■

複数の人が集まる「場」において、集まった人々の「思い」や「考え」が響きあう状態を期してさまざまな働きかけを行い、個人や集団の思考や行動、関係性の変化を醸し出す技術「ファシリテーション」について、さまざまな角度から考え抜いた一冊。

本書で紹介している「かんがえかた」や「ふるまいかた」は、自治体や企業、病院や学校など、あらゆる組織で応用できるはずです。響きあう関係を醸し、新しい価値を紡ぐ。その《カギ》が、ここにあります！

A5判・96ページ、頒価 800円

注目講座 声に出して、読み・考える

作者と読む福島の戯曲『空の村号』

戯曲『空の村号』は震災後間もない2012年、劇作家篠原久美子さんにより執筆され、児童青少年の国際演劇フェスティバルで、リーディング作品として上演されました。

その後、時間が経つ中、今でも私たちの住む茨城県内、つくば市内など身近なところで、福島から避難されてきている方、鬼怒川水害で常総から避難されてきている方が暮らしています。

それは時おり、報道で伝え聞くことはあるけれど、どこか他人ごとと感じていませんか。予期せぬ突然の被災によるコミュニティの分断は誰にでも起こり得ます。

震災後の福島をテーマにした戯曲を声に出して読むということを通して、コミュニティの絆について、被災された方々と「共にある」ことについて、いっしょに考えてみませんか？

■講師 篠原久美子さん(劇作家)

茨城県出身の劇作家。昭和音楽大学非常勤講師(台本シナリオ演習)。公務員、舞台照明家を経て劇作家に。1999年『マクベスの妻と呼ばれた女』で日本劇作家協会優秀新人作品に選出、2000年『ケプラー・あこがれの星海航路』で文化庁舞台芸術創作奨励賞佳作。

■日時 2017年6月17日(土) 13:30～16:30

■参加費 1000円(大学生以下500円)
詳細は同封のチラシをご参照ください。



代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

齋藤純一(著)『不平等を考える—政治理論入門』

(2017年3月・ちくま新書)

実践なき理論は無力であり、理論なき実践は暴力である—出典は不明ながら、私の好きな言葉の一つです。そして、本書を読んで改めてその意味を噛み締めた言葉でもあります。

地域づくりのワークショップで、しばしば「この場に來られなかった方々の立場を考えてみると、何か違ったアイデアが浮かびませんか？」といった趣旨の問いを投げかけることがあるのですが、「それって、こういうことなんだな」という一節を、本書に発見しました。

「現在の・市民の・意思を代表する制度によっては、過去や将来の・非市民とみなされている人々の・観点は代表されにくい。その意思(賛否)が代表されていない者の観点をあえて代表することがなければ、意思の代表は現在の市民の内部最適化に終わることになる」(p.202)。合理性(rationality)と道理性(reasonableness)、正当性(rightness)と正統性(legitimacy)など、著者の厳密な概念定義には、これまでも多くを学んできましたが、これほどまでに現場での実感と結びついたのは初めての経験でした。

無力でも暴力でもない「ちから」を獲得するための一冊です。(徳田)

スタッフよりヒトコト

同封の総会議案書をお読みいただければわかるように、つくば市民大学は、2017年12月をもってその活動をひとまず終了いたします。2009年の開校以来、つくば市内・外を問わずたくさんの方々からご支持いただき、「まなび、つながり、つくりだす」場を重ねてきました。この場がクローズしてしまうのは残念ですが、残り8ヶ月、さらに充実した場を重ねていけるようにスタッフ一同注力いたします。つくば市民大学のラストパートに、ご期待ください！(とこり)

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井15-2 ろうきんビル5階
TEL: 029-828-8891 Fax: 029-828-8892
e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu
web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索